

城南支部 財務診断研究会

ペット業界の財務分析

2020年4月15日（水）

まべ きょうすけ
中小企業診断士 間部 恭介

自己紹介

間部 恭介（まべ きょうすけ）

■ 経歴

1997年～エレベーターの開発

1999年～有線音楽放送の営業

2001年～情報システムの開発

2019年～診断士登録

2019年～城南コンサル塾15期生

■ 得意分野

ITおよびAI活用

■ 居住地

宮崎県→京都府→大阪府→大田区

■ 趣味

旅行、読書、釣り、サッカー

■ ペット ※写真は小さくて可愛かった7年前⇒現在は巨大化（汗）



事例企業について

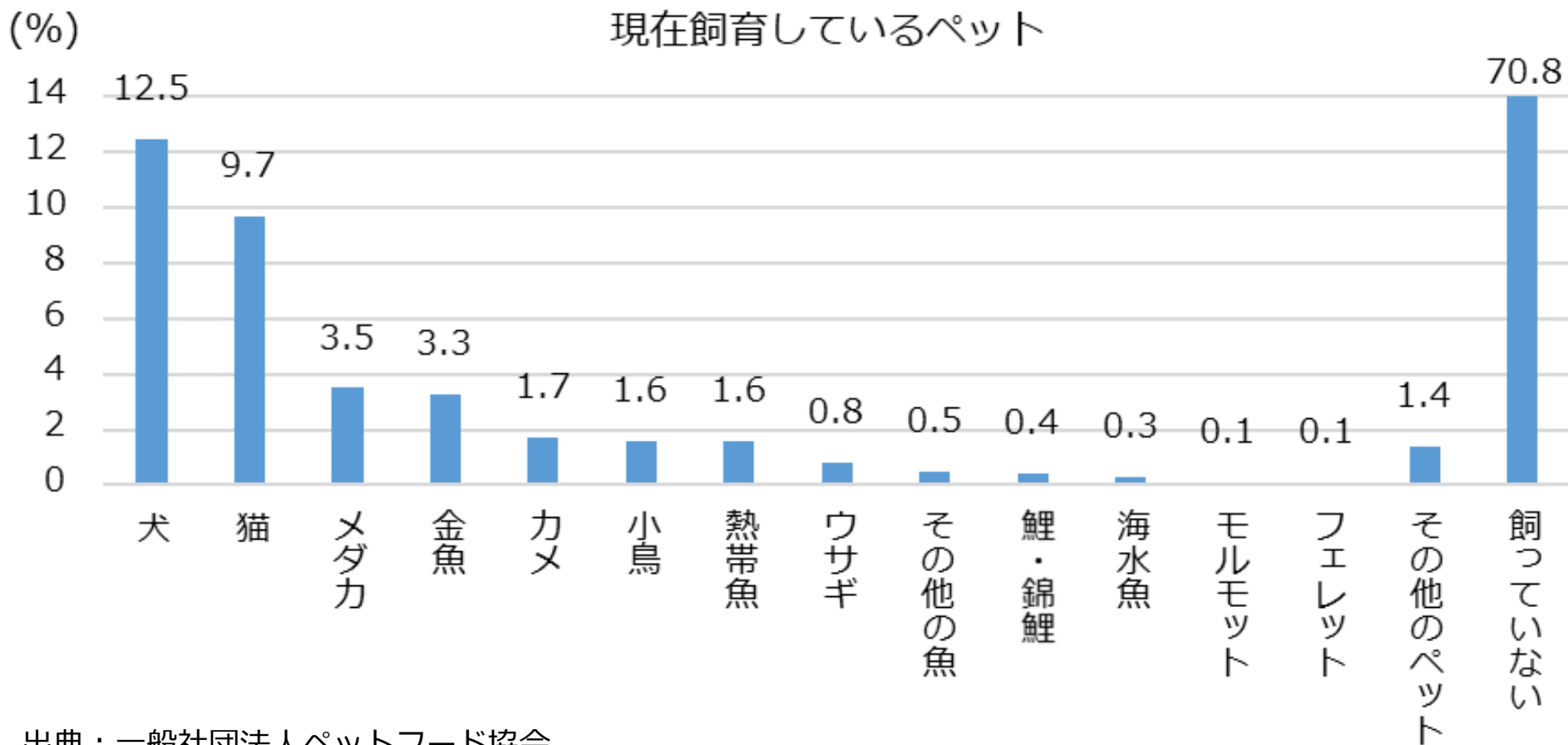
■ ペット卸売業界、ペット保険業界、動物病院業界から1社ずつ選定

企業名	エコートレーディング(株)	アニコムホールディングス(株)	(株)日本動物高度医療センター
設立	1971年6月	2000年7月	2005年9月
本社	兵庫県西宮市	東京都新宿区	神奈川県川崎市
上場	1995年3月	2010年3月	2015年3月
資本金	1,988百万円	4,410百万円	372百万円
売上高	81,054百万円	34,535百万円	2,563百万円
従業員数	327人	539人	175人
事業内容	ペットフード・ペット用品の卸売事業 ペット関連教育事業	損害保険事業 保険代理店事業 動物病院支援事業等	犬・猫向けの高度医療（二次診療）を行う動物病院の運営
日本標準産業分類	5599：他に分類されないその他の卸売業	6721：損害保険業（損害保険再保険業を除く）	7411：獣医業

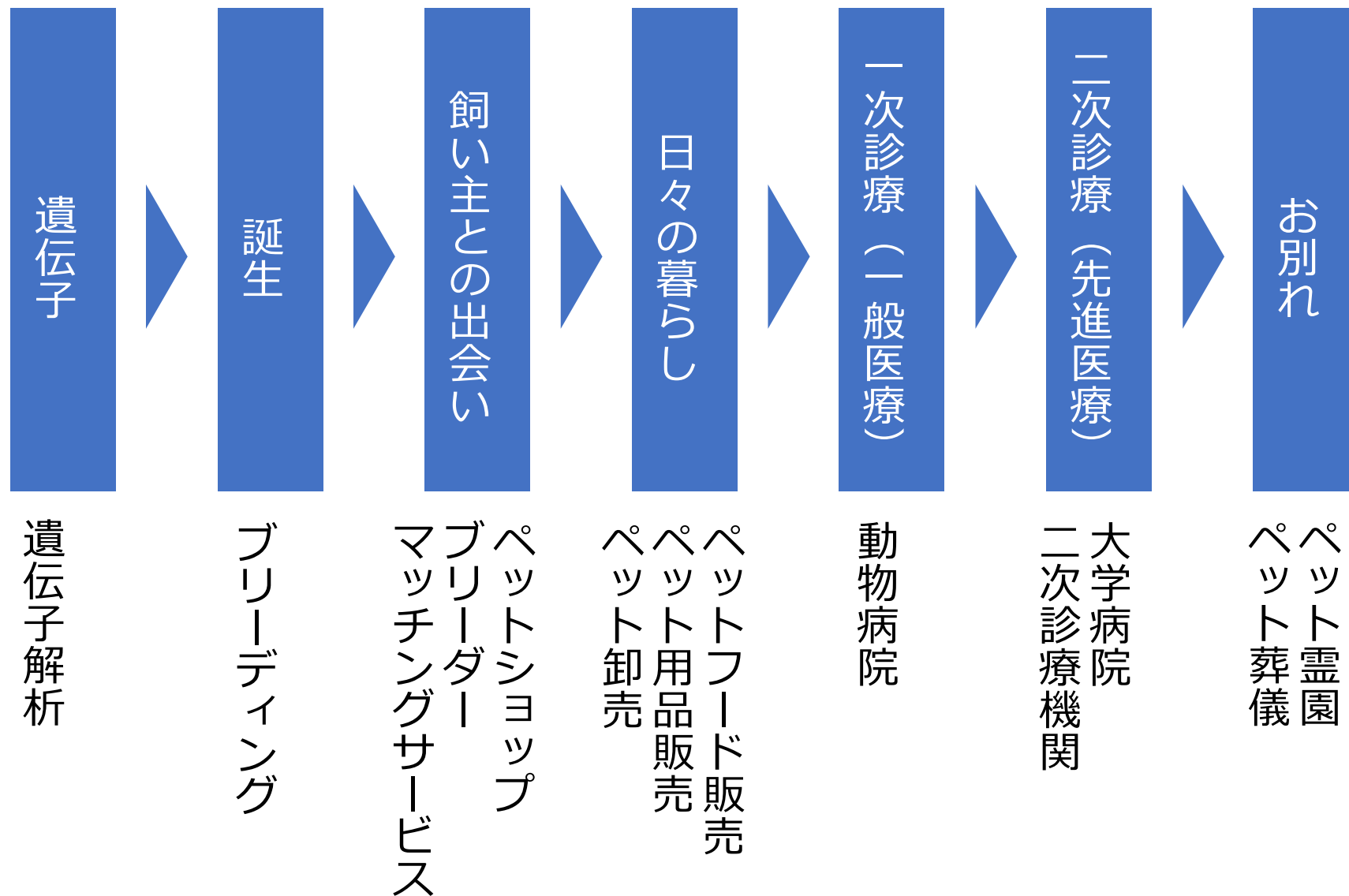
1. ペット業界の概要

ペットとは？

- ペットとは、かわいがるために飼育される愛玩動物のこと
- かわいらしく愛嬌のある容姿、きれいな鳴き声、飼い主に従順な性格などがペットの条件
- 犬・猫が中心、ワニ、トカゲ、ヘビなどの爬虫類や両生類も人気

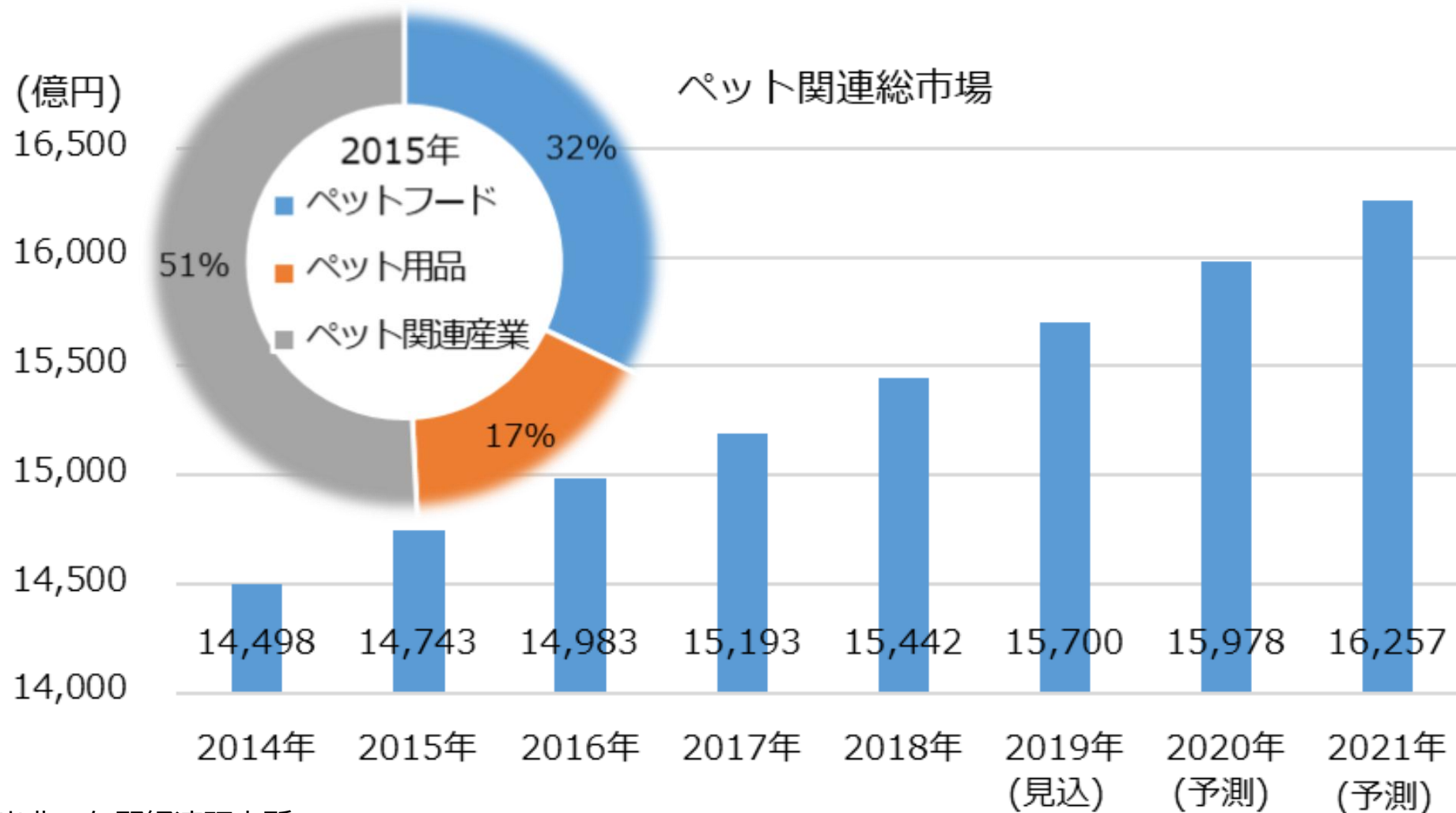


ペットのライフステージとペットビジネス



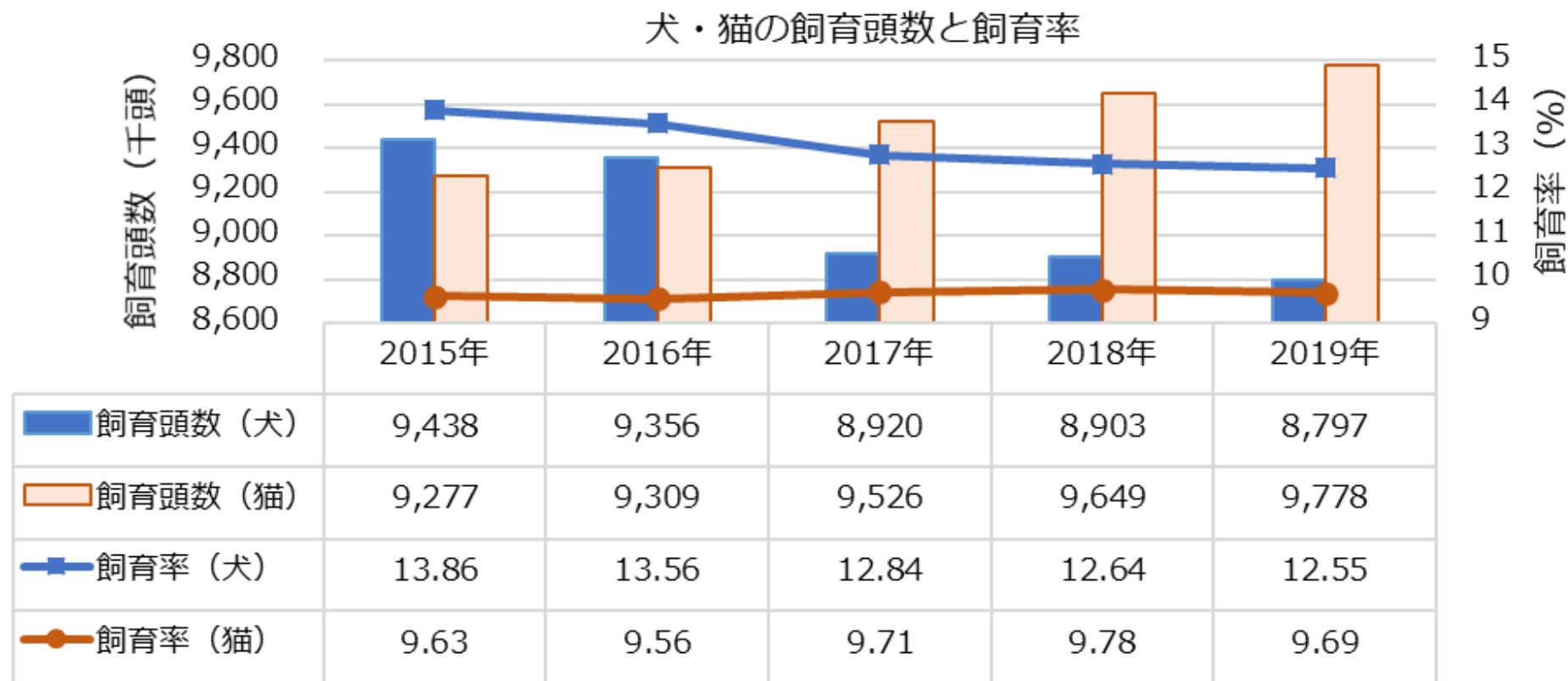
ペット関連総市場規模

- ペット関連市場は年率約1.6%増のペースで成長し、現在は約1.6兆円
- ペットの飼育頭数は減少しているが、1頭あたりの支出額が増加



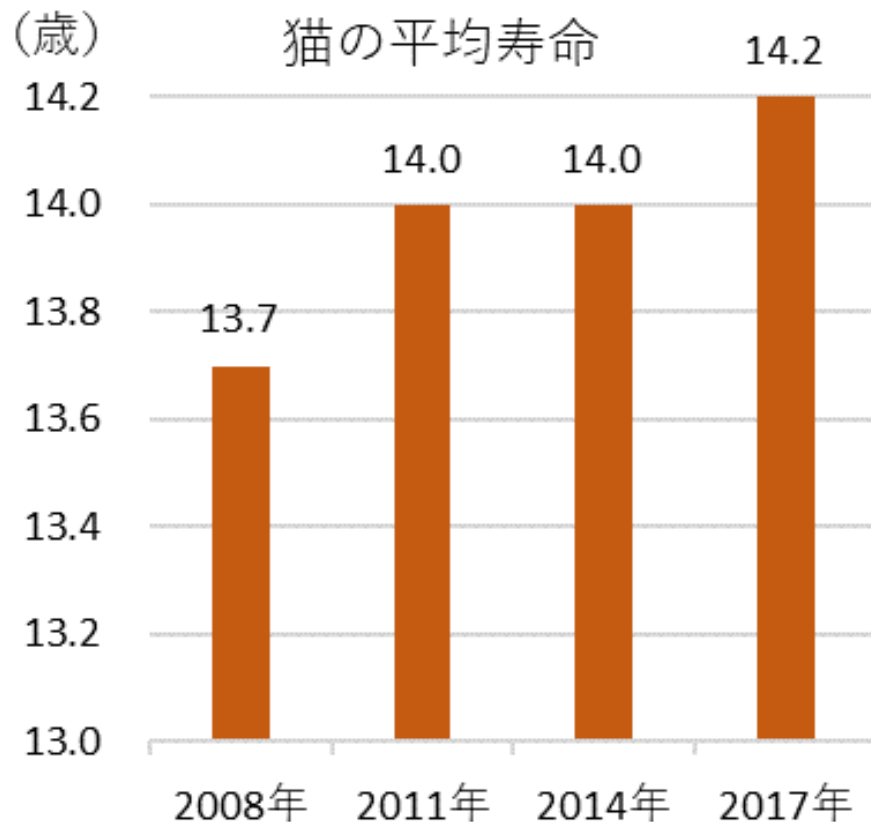
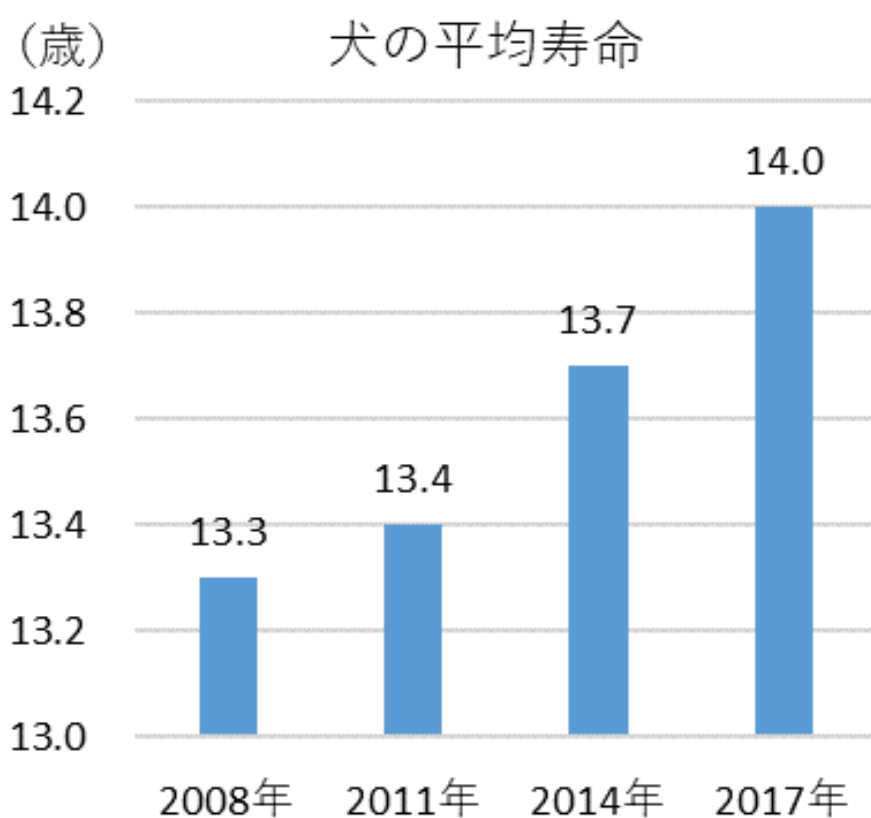
犬・猫の飼育頭数

- 犬の飼育頭数は減少傾向、猫の飼育頭数は増加傾向
- 2017年に猫の飼育頭数が犬の飼育頭数を逆転
- 猫は世帯当たり飼育頭数が多く、飼育世帯数は犬の方が多い
- 猫は散歩が要らず、高齢者や単身者にも飼いやすいのが一因



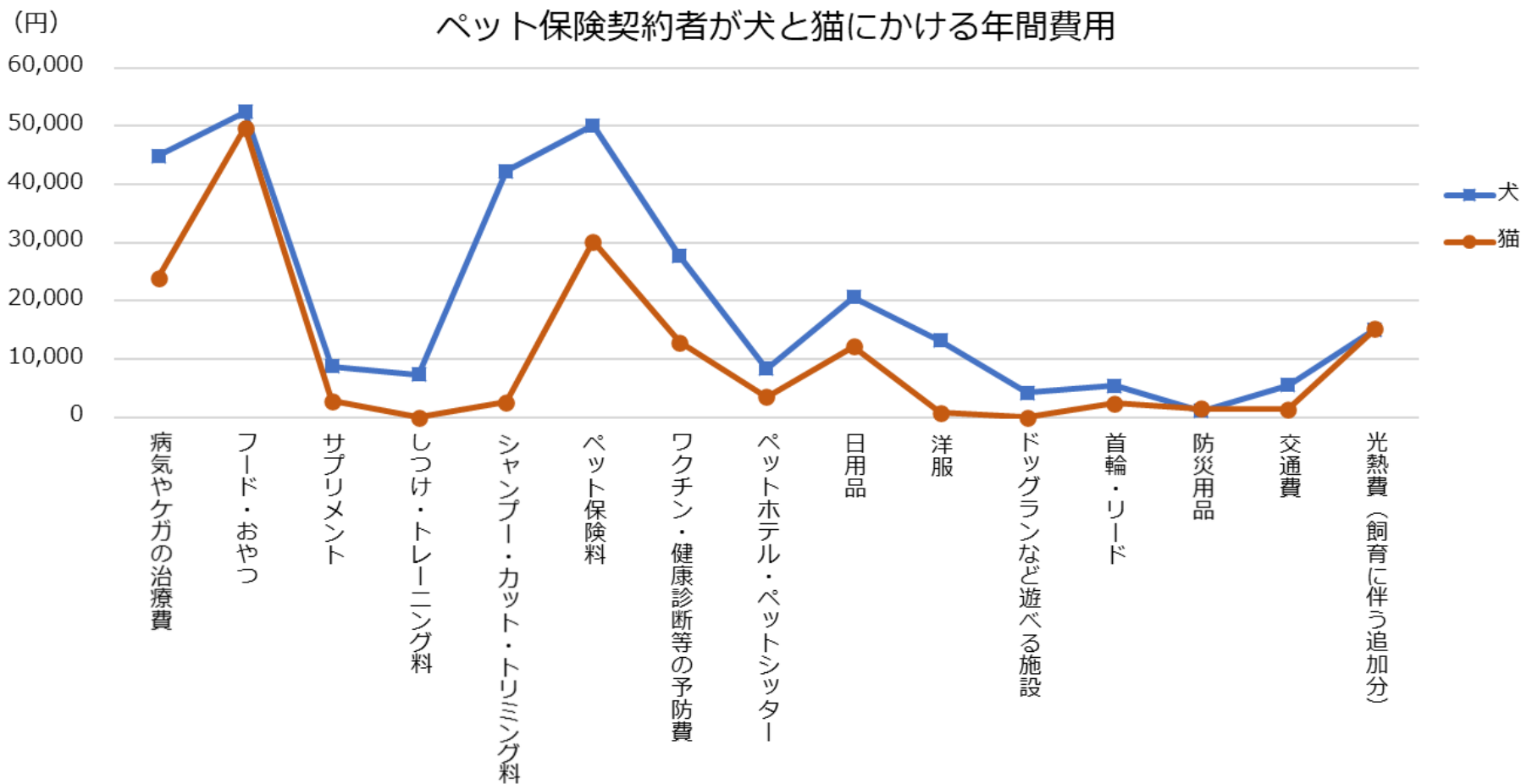
犬・猫の飼育状況

- 飼育のペットに対す状況のトレンドは「室内飼育化」「小型犬化」「高齢化」「肥満化」
- 医療の発展、室内飼育化、小型犬化に伴い、平均寿命が延びている
- 飼い主のペットに対する健康管理意識が高まっている



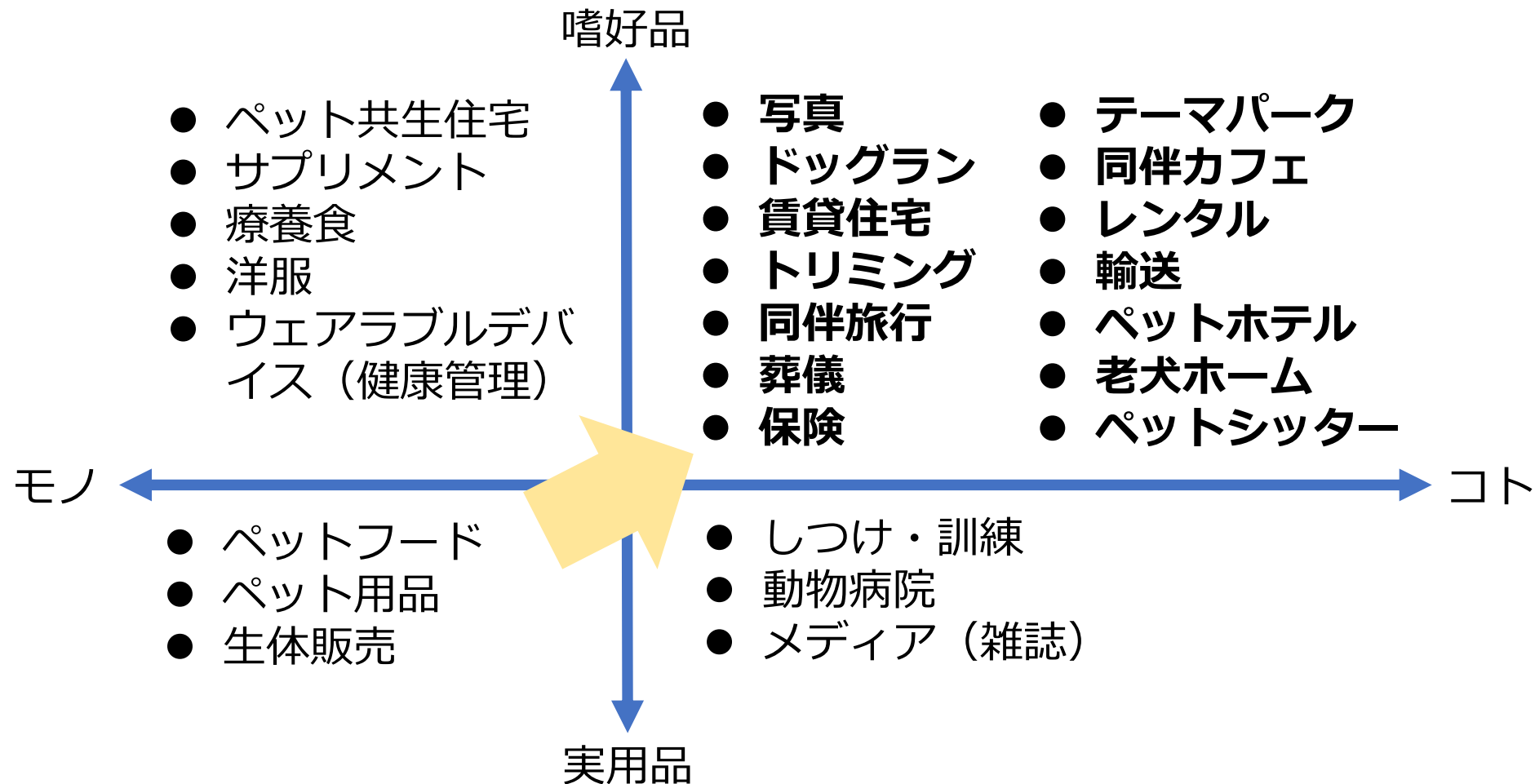
犬・猫にかかる費用

- アニコム損害保険のペット保険契約者を対象としたアンケートにおいて、2019年の1年間にかけた費用は犬が306,801円、猫が158,680円
- 保険契約者が対象なので医療費や保険料の比率が高い



ペット関連商品・サービス

- ペット業界の3大トレンドは「家族化」「高齢化」「健康志向」
- 人間と同様、モノ消費からコト消費に移行
- 必需品に加え、嗜好品の部類に属するサービスが登場



最新ペットビジネス

- ペットの家族化が進む中、様々なペットビジネスが登場
- 高齢化と健康志向に着目したサービスにも注目

(株)DogHuggy

- 犬の飼い主と世話人のマッチングサービス
- 長期の外出ができない愛犬家の悩みを解消

(株)シロップ

- 保護犬猫と飼い主のマッチングサービス
- 里親募集サイト「OMUSUBI（お結び）」を運営

(株)久ヶ原スポーツクラブ

- 犬専用フィットネスクラブ「エルペロ」
- 愛犬の運動不足を独自プログラムで解消

三和交通(株)

- ペットのタクシーサービス
- ペットだけの乗車も可能

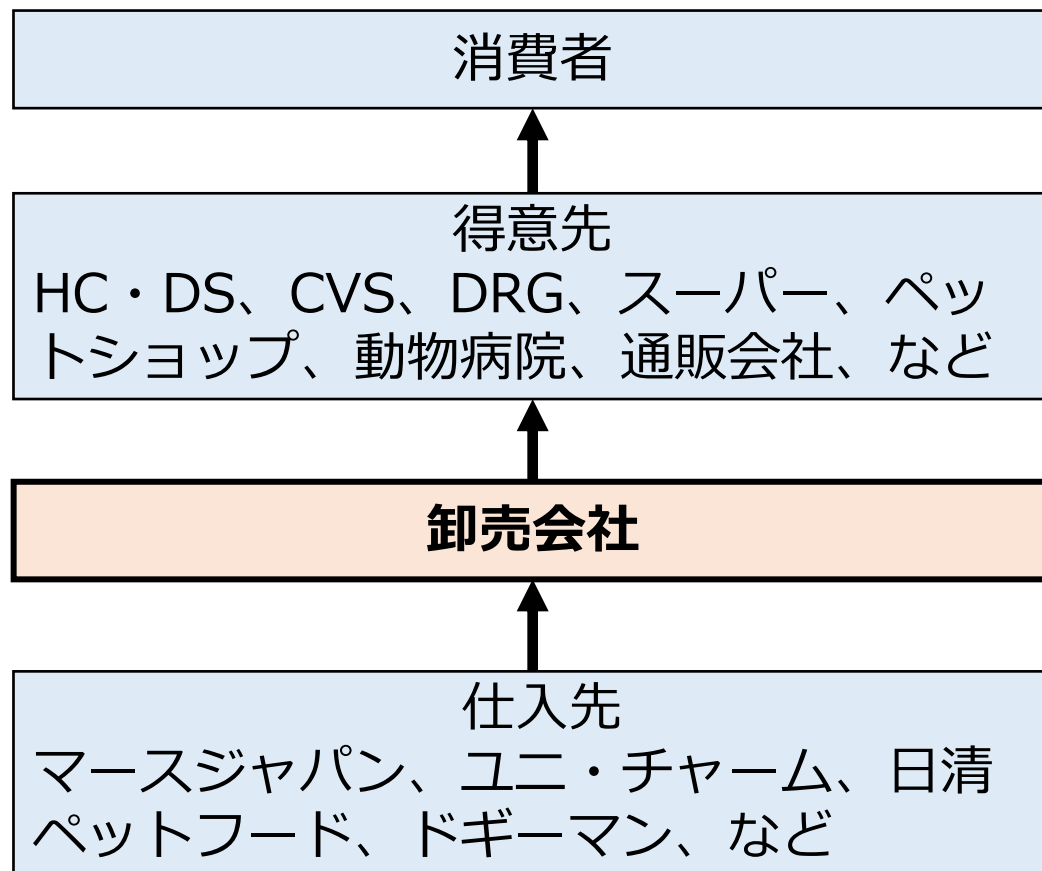
(株)Zpeer

- 獣医師コミュニティサイト「ベットピア」を運営
- すべての動物に適切な医療を届けることがミッション

2. ペット卸売業界

ペット卸売業界の概要

- 仕入先は、国内外のペット食品メーカー、ペット用品メーカーが中心
- 得意先は、ホームセンター(HC)・ディスカウントストア(DS)、コンビニ(CVS)、ドラッグストア(DRG)などで、近年は小売チャネルが多様化
- インターネットによる直接販売など、卸業者を通さない流通も増加



卸売会社の役割

- ① 商品・サービスの選定・調達・提供
- ② マーケティングおよび営業
- ③ 人とペットの共生の素晴らしさの伝達
- ④ 各種セミナー等、有益な情報を提供
- ⑤ 小売店の役割の一部を担う（リテールサポート）

ペット卸売業界の主要プレイヤー

ペット卸売は寡占化が進み、市場シェアの大半は大手5社が占めている

企業名	概要
ジャペル(株)	ペット卸売業界の最大手。ペット専門の卸売業者であり、ホームセンターに強みを持つ。売上は989億円（平成28年3月期）。卸売業のみに留まらず、ペットショップの運営やスクール事業など、その事業は多岐に渡る。
エコートレーディング(株) ※事例企業	ペットフード・用品の専門卸売業者であり、商品開発、トリマー等の育成、ペット専門店開発などペット事業を幅広く手掛ける。売上は733億28百万円（単体、2016年2月期）。
三井食品(株)	三井物産グループの卸売業者として、国内中間物流基盤を構築し、取引先へのサービス向上ならびに物流の最適化を進めている。売上は7,929億円（連結、2016年3月期）。
ラブリー・ペット商事(株)	関西方面を中心に展開しているペット専門の卸売業者。売上高は227億700万円（平成27年6月度）。
(株)リョーショクペットケア	2010年8月に三菱商事の100%子会社のトーショーを同グループの三菱食品が100%子会社とし、同社のペットフード事業を統合。

ペット卸売業界の動向

ペット飼育者の購買行動が変化し、卸を介さない取引の増加やリアルチャネルの売上減少、プレミアム志向による人気商品の変化等がみられる

チャネルの 多様化

現状、ペット卸の最大の取引先はホームセンターやディスカウントストアであり、その後にスーパーやペットショップ等が続く。しかし近年は、チャネルの水平的（取引地域）・垂直的（取引先の種類）な多様化が進んでいる。

独自商品の 開発

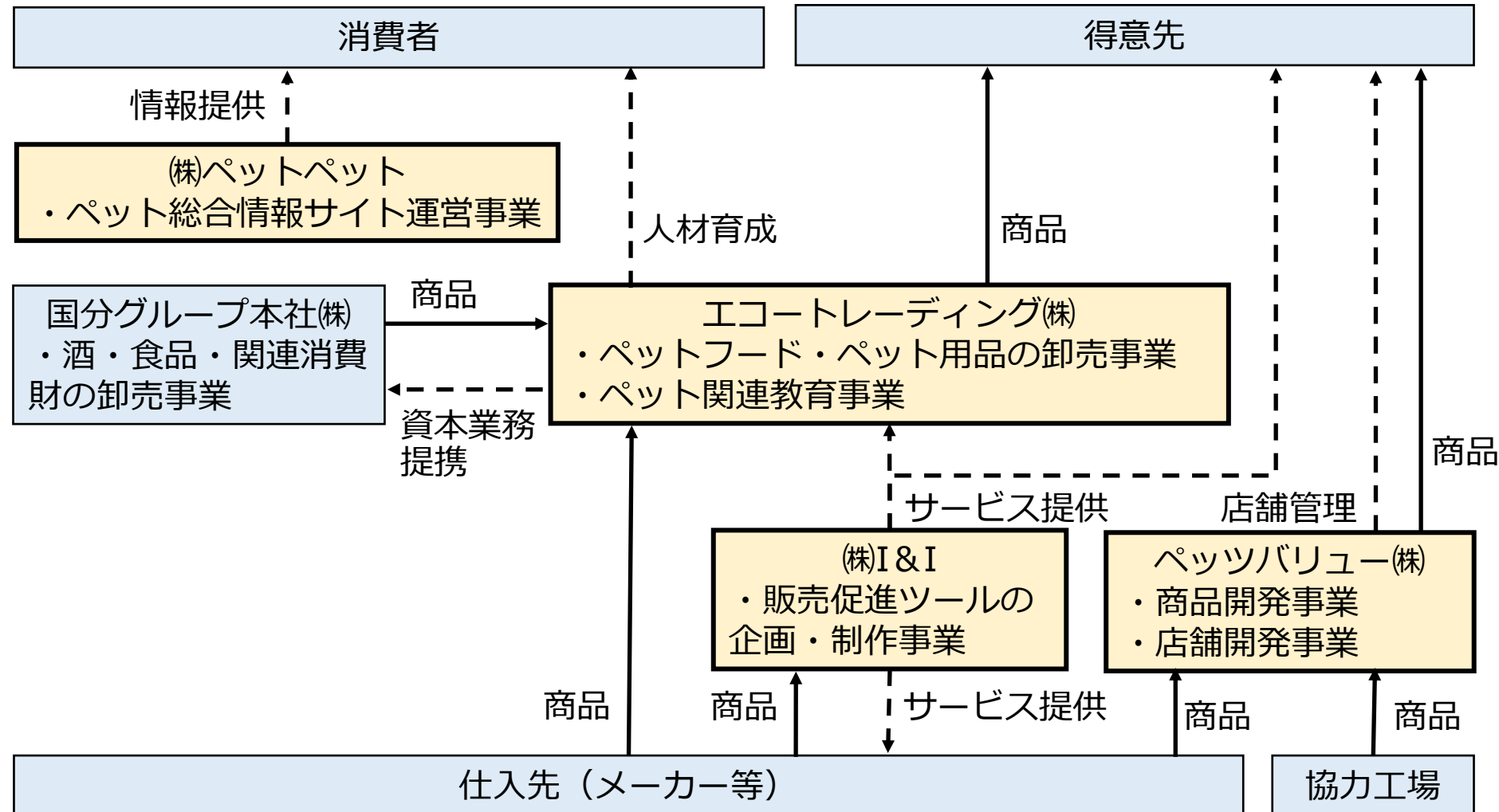
主要ペット卸企業の中でも、メーカーや小売店と協力してPB商品を開発・製造している企業が見られる。三井食品は、近年のプレミアムフード志向に合わせて素材と品質にこだわったペットフードを製造・販売している。

販売・管理 の支援強化

ネット通販によるペットフード・用品の購買が増えるに連れて、ホームセンター等のリアル店舗における売上は減少することが見込まれる。これに対し、ペット卸側は卸売事業に付加価値を付けるべく、自社で保有する情報を活用したマーケティング支援に注力している。

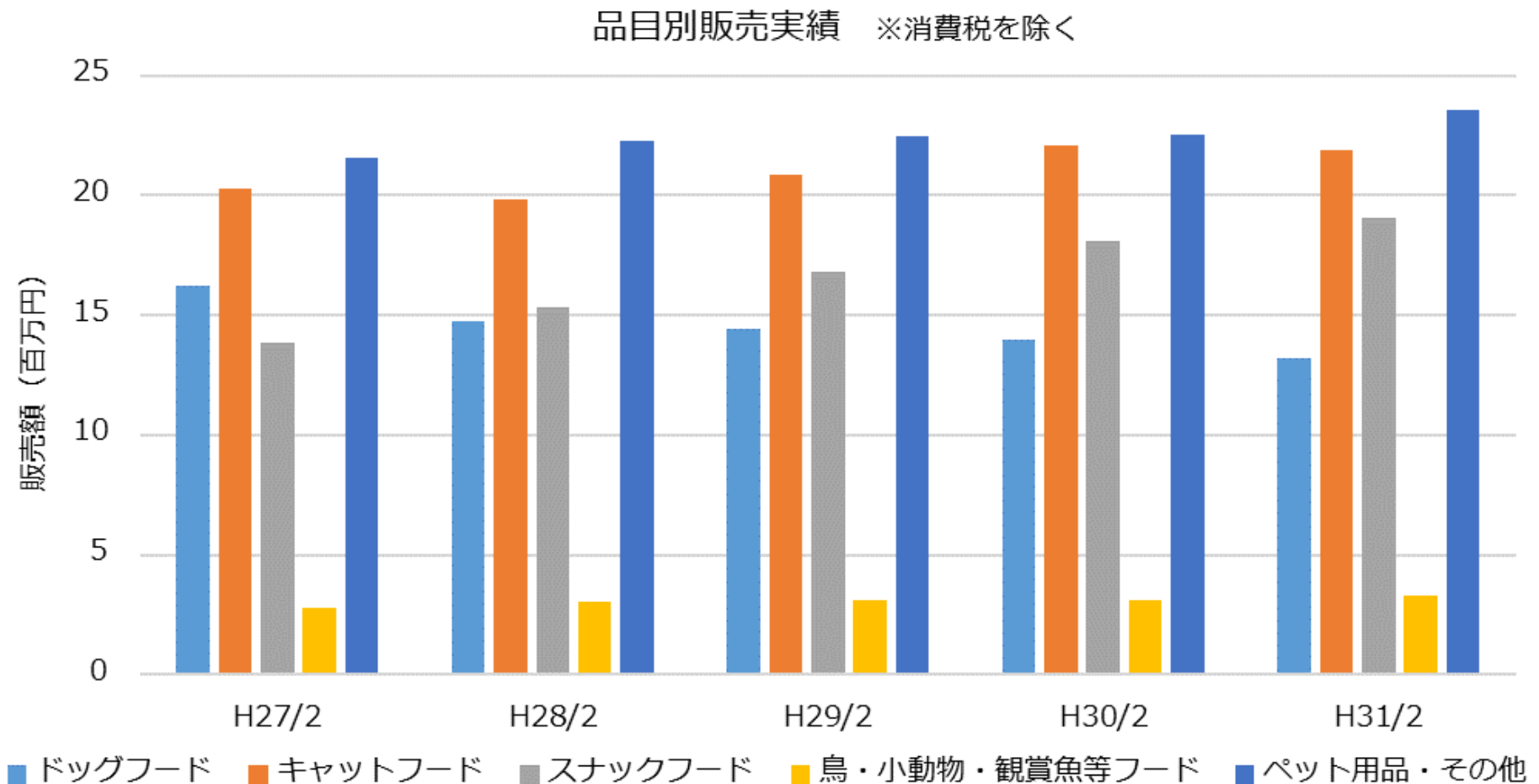
エコトレーディング～事業概要～

- ペット関連商品卸売事業の当社と子会社3社でグループを構成
- ペットに関連する商品開発・サービス・教育の各分野において事業を展開



エコトレーディング～業績動向～

- 犬の飼育頭数減少に伴いドッグフードの販売額も減少
- キャットフードの販売は堅調
- スナックフードとペット用品の販売額は増加傾向



エコートレーディング～経営環境と課題～

経営環境

- 低価格指向・節約志向が依然継続し、犬の飼育頭数減少や生体の小型化などを主要因とし、ペット関連市場の成長率は鈍化
- 小売業者間の競争が激化しており、当社の強みである物流機能や企画提案力のさらなる強化が急務
- 原材料価格の高騰により仕入価額が上昇
- 卸売業界内の価格競争激化、人件費や物流コストの高止まり



経営課題

- 市場や取引先への迅速な対応を更に強化
- チャネル・エリアのマーケット特性に合わせた提案による利益改善
- 各物流センターの高度平準化を推進して物流コストを抑制
- 事業モデルを全国へ水平展開し、管理店舗数を更に増加
- 高付加価値商品の新規開発および既存戦略商品の販売拡大
- グループシナジーの最大化

3. ペット保険業界

ペット保険業界の概要（1 / 2）

■ ペット保険とは？

ペットが病気やケガで診療や手術を受けた場合、飼主が負担した費用を一定割合の範囲内で補償（期間1年）する保険。ヒトの医療保険（第三分野保険）に近いが、保険業法上は「保険者が偶然の事故により生じる損害をてん補する保険」（損害保険）と規定される。

一部の保険会社では動物用保険証を使った仕組みの構築に成功しており、人間の健康保険と同じように利用することができる。保険金請求は病院側でレセプト請求をしてくれるので、飼い主が当日精算する医療費がわずかな金額で済むようになる。



■ ペット保険の販売チャネル

新生児チャネル

- これからペットを飼う顧客が対象
(年間60～70万頭)

ペットショップ

ブリーダー

一般チャネル

- すでにペットを飼っている顧客が対象
(1,800万頭)

金融機関
銀行、信金、
損保、証券、
保険代理店

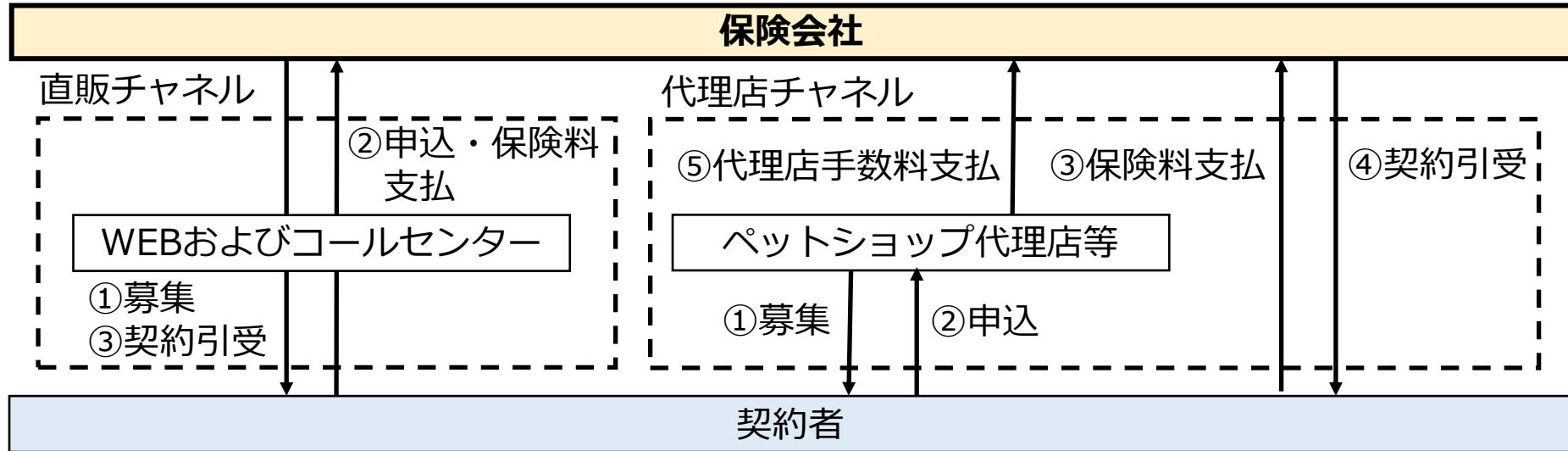
団体・企業
職域、企業代
理店、生協、
カーディーラ

ペット関連
動物病院、
ペット
ショップ

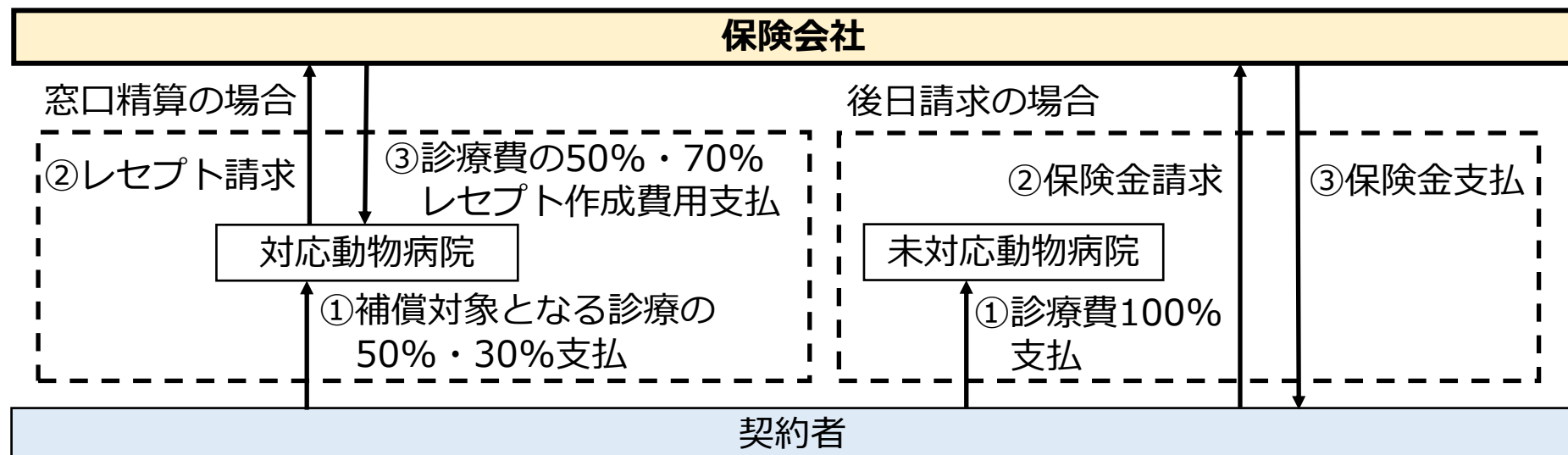
直販
WEB、
コール
センタ

ペット保険業界の概要（2 / 2）

■ 保険募集体制

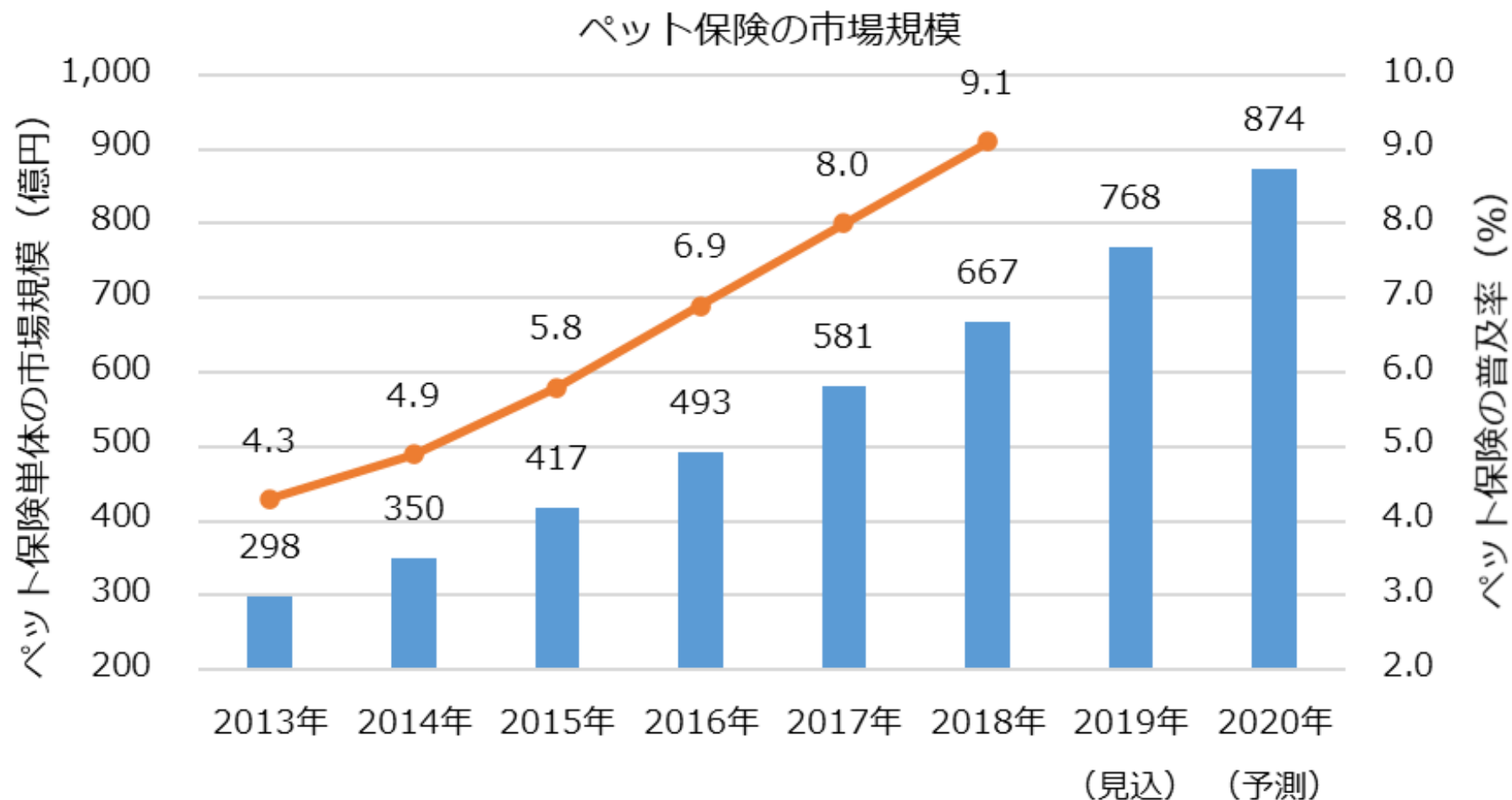


■ 保険金支払体制



ペット保険業界の市場規模

- 認知度が向上し、ペット保険市場は年率20%超のペースで拡大
- 英国の23～25%など、欧米に比べると日本の保険加入率はまだ低い



ペット保険業界の主要プレイヤー

プレイヤーは金融庁免許を受けペット保険を扱う損害保険会社5社と、財務局に登録された少額短期保険業者10社

企業名	概要
アニコムホールディングス(株) ※事例企業	ペット保険業界1位。近年は保険だけではなく、「anicom jobs」や「anico park」等、多岐に渡る事業を展開している。
アイペット損害保険(株)	ペット保険業界2位。クラブアイペット等、保険加盟者に対する付加サービスの充実を図っている。
ペット&ファミリー損害保険(株)	ペット保険業界3位。2008年12月にT&Dホールディングスの完全子会社となった。
アクサ損害保険(株)	2011年4月からペット保険の販売を開始。火災保険、自動車保険等、多種多様な保険商品を扱っている。
au損害保険(株)	2014年4月よりペット保険を販売開始。保険加入者を対象としてスマートフォンアプリ「ペットの家」も展開している。

アニコムホールディングス～事業概要（1 / 2）～

- ペット保険業界で50%超の市場シェアを握るマーケット・リーダー
- アニコムホールディングスの傘下に5つの子会社を有し、同社の連結経常収益の96%をアニコム損害保険が計上
- ペットの遺伝病回避策としての遺伝子検査、動物病院における一般診療、再生医療等の先進医療の提供と終生飼育施設の展開といった川上から川下までのサービスを付与し、ペット保険の売上拡大に資する仕組みを構築中

アニコムホールディングス(株)
・保険持ち株会社

連結子会社

アニコム損害保険(株)
・損害保険事業（ペット保
険）

アニコム フロンティア(株)
・保険代理店事業

アニコム パフエ(株)
・動物病院支援事業

アニコムキャピタル(株)
・コーポレート・ベン
チャー・キャピタル事業

アニコム先進医療研究所(株)
・動物医療分野における研
究・臨床事業

アニコムホールディングス～事業概要（2 / 2）～

- 主業であるペット保険は、売上（収入保険料）が先に計上され、保険金（売上原価）がその後に発生する構造
- 翌期以降の保険期間に対応する未経過保険料を責任準備金として繰り入れ
- 2008年に「どうぶつ保険証」を提示すれば自己負担分のみを支払う窓口精算サービスを導入し、顧客の会員化と同サービスのデファクトスタンダード化が成長を支えた。

主な保険商品

アニコム損保のペット保険
どうぶつ健保
ふぁみりい

- ・窓口精算対応

対象動物					補償割合	
犬	猫	鳥	ウサギ	フェレット	70%	50%
モモンガ	リス	ハムスター	ネズミ	モルモット		
ハリネズミ	カメ	トカゲ	チンチラ	ヘビ		

アニコム損保のペット保険
どうぶつ健保
ぶち

対象動物					補償割合
犬	猫	鳥	ウサギ	フェレット	70%
モモンガ	リス	ハムスター	ネズミ	モルモット	
ハリネズミ	カメ	トカゲ	チンチラ	ヘビ	

アニコム損保のペット保険
どうぶつ健保
はっぴい

- ・窓口精算対応
- ・動物取扱業代理店限定

対象動物					補償割合	
犬	猫	鳥	ウサギ	フェレット	70%	50%
モモンガ	リス	ハムスター	ネズミ	モルモット		
ハリネズミ	カメ	トカゲ	チンチラ	ヘビ		

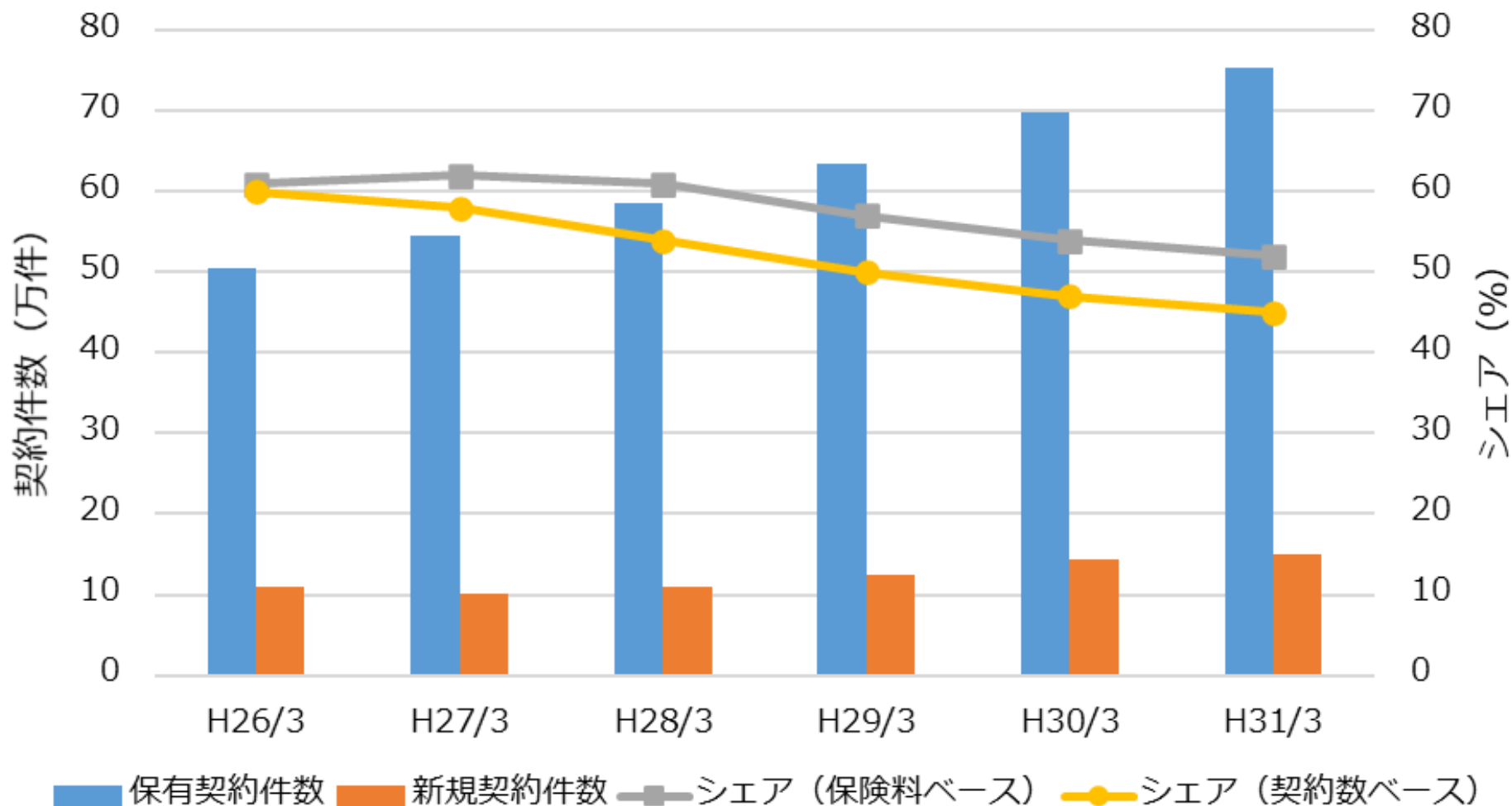
アニコム損保のペット保険
どうぶつ健保
べいびい

- ・窓口精算対応
- ・動物取扱業代理店限定

対象動物					補償割合	
犬	猫	鳥	ウサギ	フェレット	1ヶ月目	2ヶ月目～12ヶ月目
モモンガ	リス	ハムスター	ネズミ	モルモット	100%	50%
ハリネズミ	カメ	トカゲ	チンチラ	ヘビ		70%

アニコムホールディングス～業績動向～

- 過去5年の年率成長率は10%超を維持
- 業界2位のアイペット損害保険のシェア拡大、少額短期保険会社の市場参入もあり、同社の市場シェア（保険料ベース）は50%超とはいえ漸減



アニコムホールディングス～強みと弱み～

強み

- ① 「どうぶつ保険証」を採用した「窓口精算システム」の動物病院におけるデファクトスタンダード化（同社の対応病院数は9割超）
- ② 高い市場シェア（5割超）を背景にした知名度、顧客ベース、蓄積データが新事業展開に余地
- ③ 安定した売上が期待できるストック型ビジネス（同社ペット保険の平均継続率は88.7%）

弱み

- ① 免許業種ゆえの規制対応コスト（新規事業展開を行う際に、保険業法の制約を受けない企業との競争で条件的に不利となる可能性）
- ② 競合他社に比べ高水準の損害率（保険金支払が多い）が価格競争で不利
- ③ 消費増税や損害率の急上昇など、突発的な費用増減に対して収益が振れやすい

アニコムホールディングス～経営環境と課題～

経営環境

- 日本国内では、犬の飼育頭数が逡減傾向
- ペット保険事業の競争環境が激化
- ペット保険の普及率はペット保険の先進国である英国やスウェーデンと比較すると未だ低水準



経営課題

- ペット保険が社会に広く認知・利用されるためのマーケティングやP Rを強化
- 他社の保険商品と比較し、独自性・優位性の有する魅力ある保険商品を提供
- 既に飼育されているペットをターゲットとした一般チャネルの営業等を強化
- リーディング現場のサポートにより、健康なペットの流通を促進し、ブリーダー数の減少に歯止め
- 老犬ホームなど、ペット飼育者が安心して飼育できる環境を構築

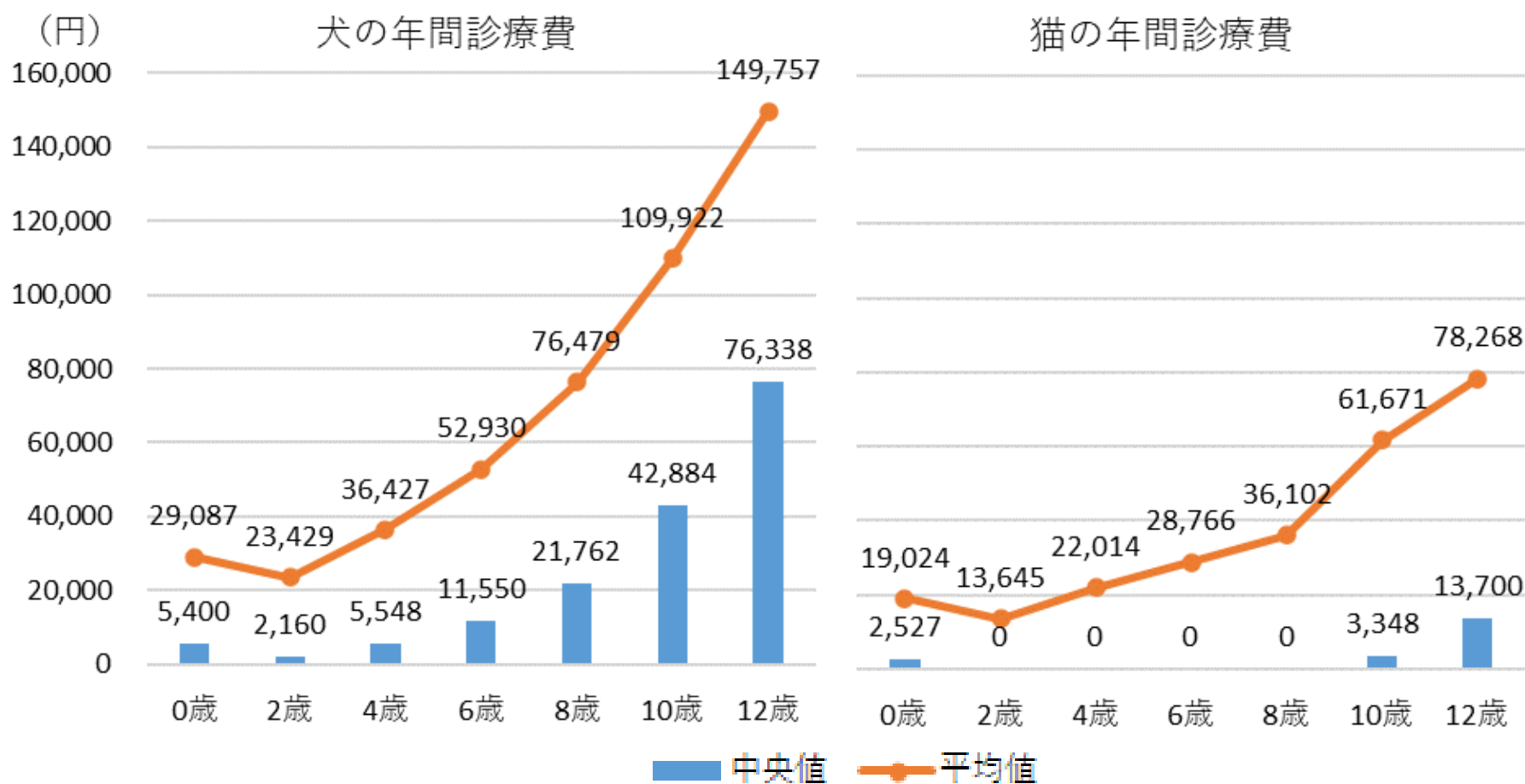
4. 動物病院業界

動物病院業界の概要

- 動物病院とは、飼育動物の診療を目的として、獣医師が開設した病院（診療施設）をいう。
- 動物病院には、牛や豚などの産業動物を診療する施設と小動物（いわゆるペット）を診療する施設があり、ここでは後者を指すものとする。
- 人間と違い自由診療の為、検査・治療にかかる費用が高額になるケースも。
- かかりつけ動物病院である一次診療機関（いわゆる町の獣医さん）と、特殊な検査や、高度な治療をする二次診療機関に大別される。
- ほとんどの一次診療機関は規模が小さく、診療科が分かれていないため、獣医師は、広く網羅的な知識を要する。
- 二次診療機関は主に大学病院などで、難しい病気などの際に一次診療機関から紹介を受けて診療を行う。
- 獣医師として診療業務を行うには、農林水産省認可の獣医師免許が必要。
- 獣医師免許を取得するには、全国で17大学（最近1つ増えた）にある獣医学科（6年制）を卒業し、獣医師国家試験に合格する必要がある。

犬・猫にかかる診療費

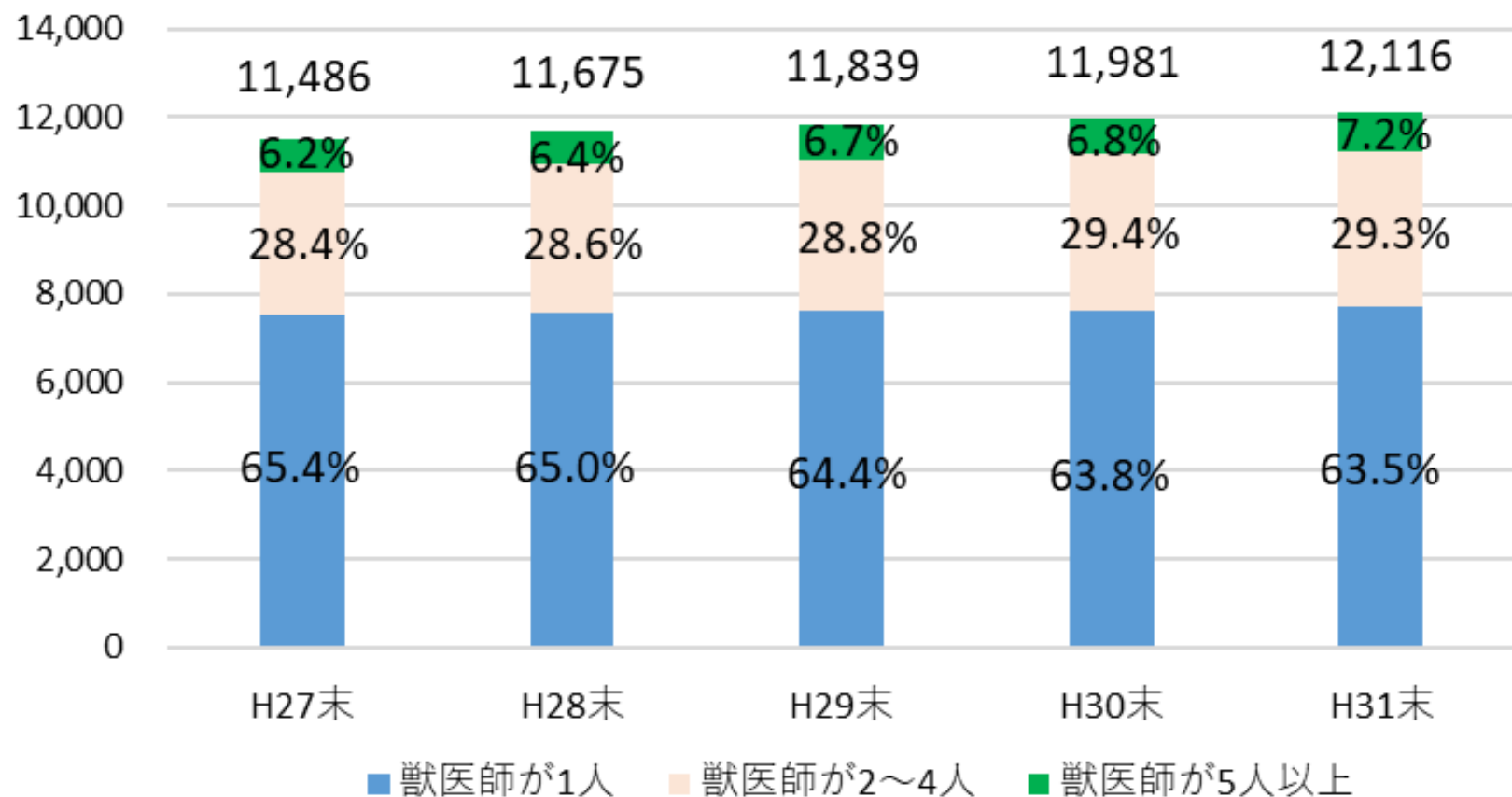
- 犬と猫では犬のほうが2倍程度診療費が高い
- 0歳を除き、年齢が上がるほど診療費が増加
- 特に高齢犬は医療費負担が極めて大きく、平均で年間10万円を超える



動物病院数の推移

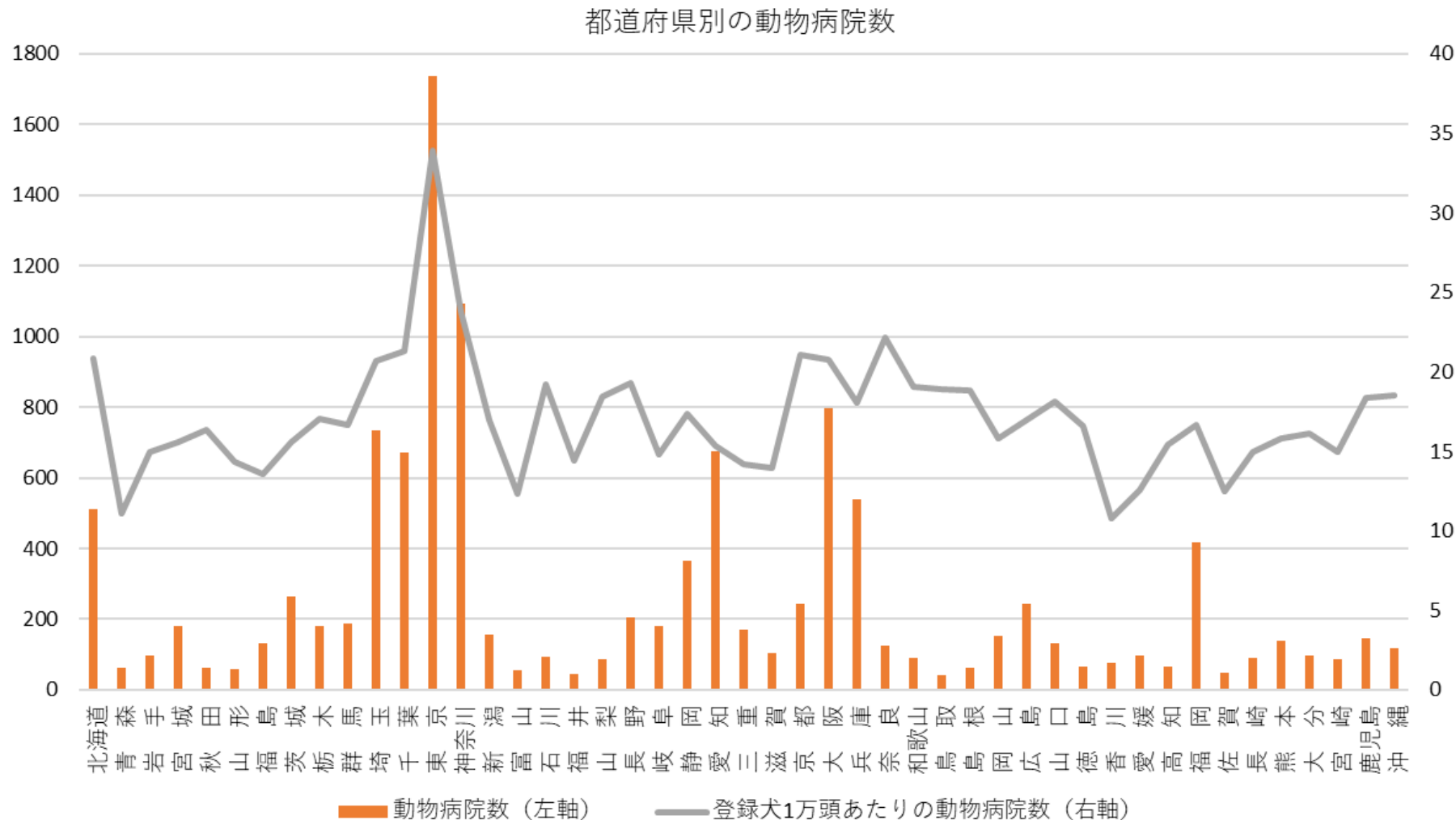
- 動物病院数は増加傾向
- 動物病院のうち、約75%が夫婦での経営、内約60%が個人経営
- 規模の大きい病院ほど増加傾向が顕著であり、大規模化が進行

獣医師数別の動物病院数



動物病院の地域別分布

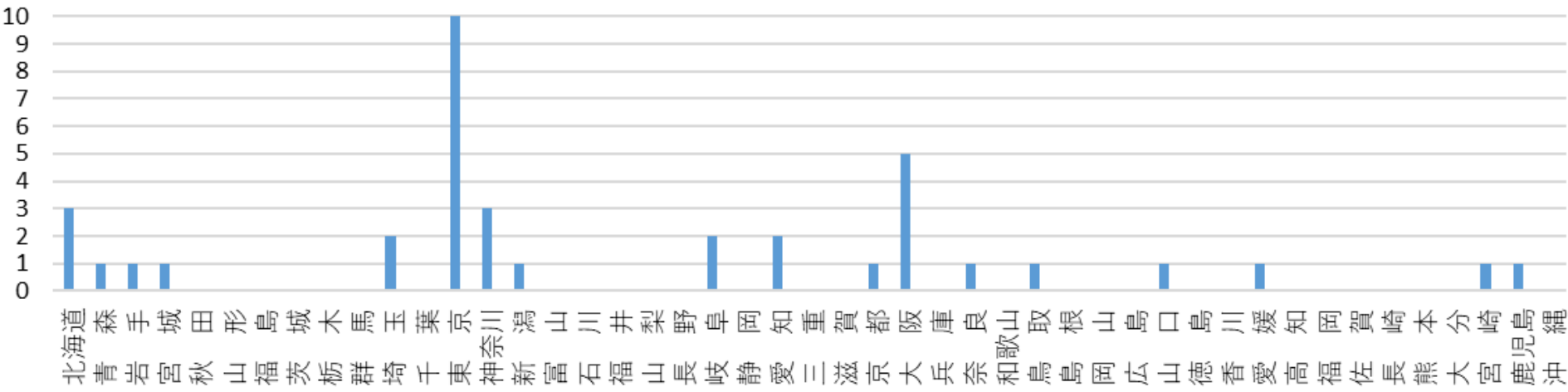
- 動物病院の数は東京、神奈川、大阪などの大都市に集中
- 登録犬10,000頭あたりでは、東京を除き20病院前後でほぼ均等に分布



二次診療機関の地域別分布

- 二次診療専門の動物病院は全国で38施設（出典：カルーペット）
- そのうち17施設は獣医学科のある大学の付属病院
- 東京の10施設を筆頭として大都市に集中、地方には少ない

都道府県別の二次診療専門動物病院数

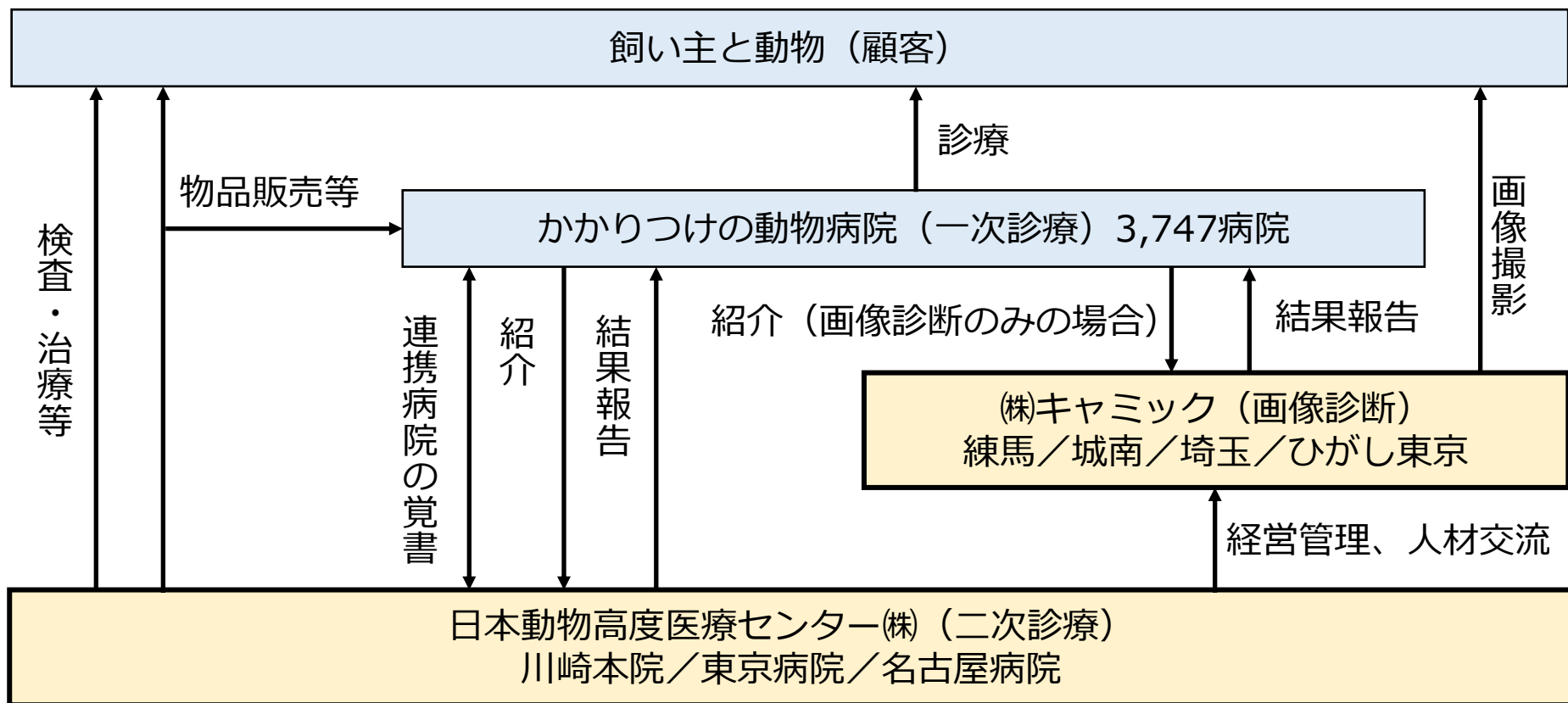


関東の二次診療機関

日本大学動物病院	東京大学附属動物医療センター	日本小動物医療センター目黒消化器サテライト病院
どうぶつの総合病院	麻布大学附属動物病院	アニマルアイケア・東京動物眼科醫院
どうぶつ眼科EyeVet	やまぐちペットクリニック	日本獣医生命科学大学動物医療センター
犬と猫の皮膚科	東京農工大学動物医療センター	日本動物高度医療センター川崎本院
相川動物医療センター	日本小動物医療センター本院	日本動物高度医療センター東京病院

日本動物高度医療センター～事業概要（1 / 2）～

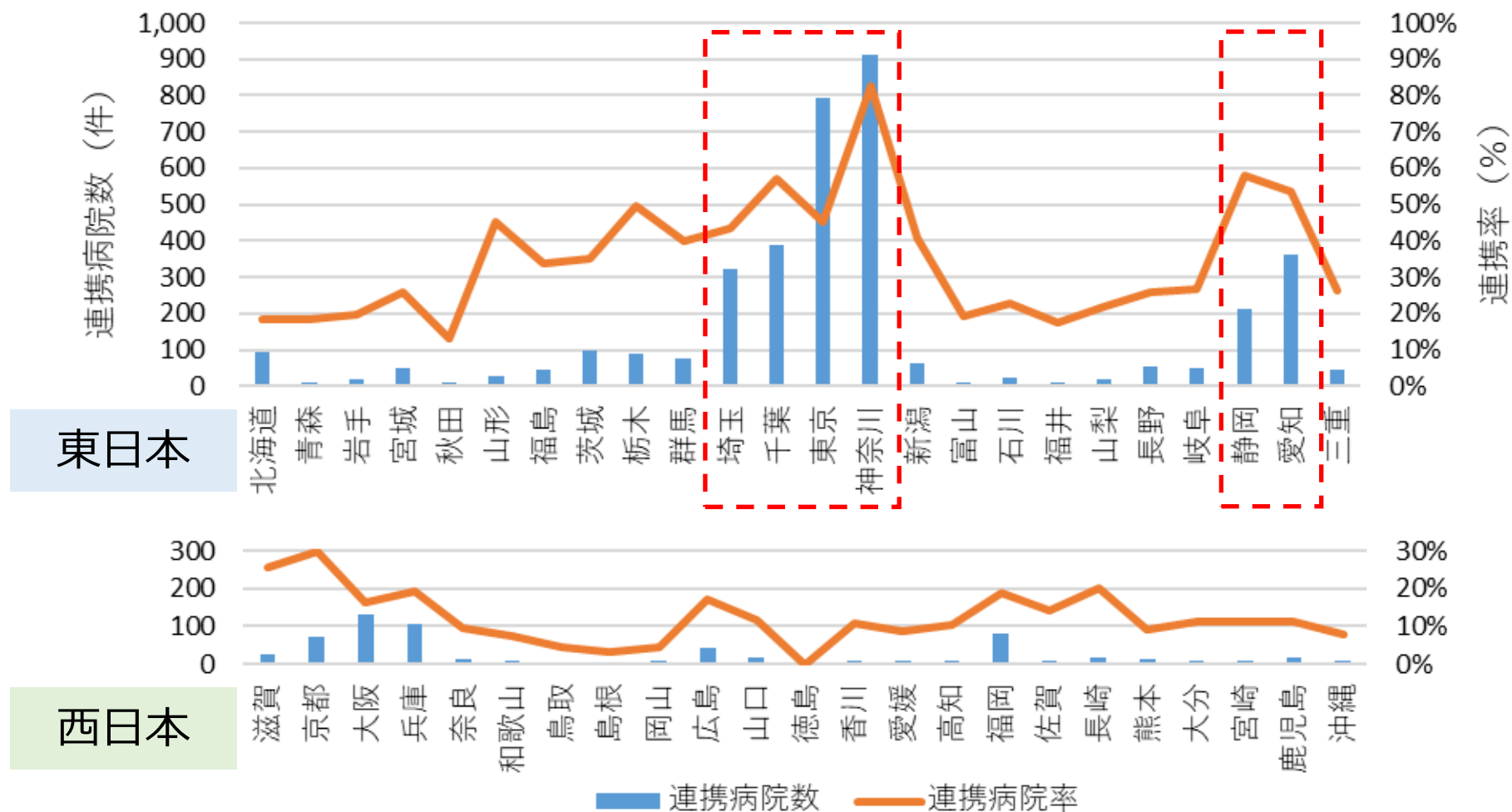
- 当社及び連結子会社の株式会社キャミックで構成され、動物医療業界における高度医療（二次診療）を提供
- かかりつけ動物病院（一次診療施設）からの紹介によってのみ診療
- 高度医療を実践すると同時に、最先端医療を学ぶことができる「教育の場」、新しい技術やツールの開発を行う「臨床研究の場」を提供



日本動物高度医療センター～事業概要（2 / 2）～

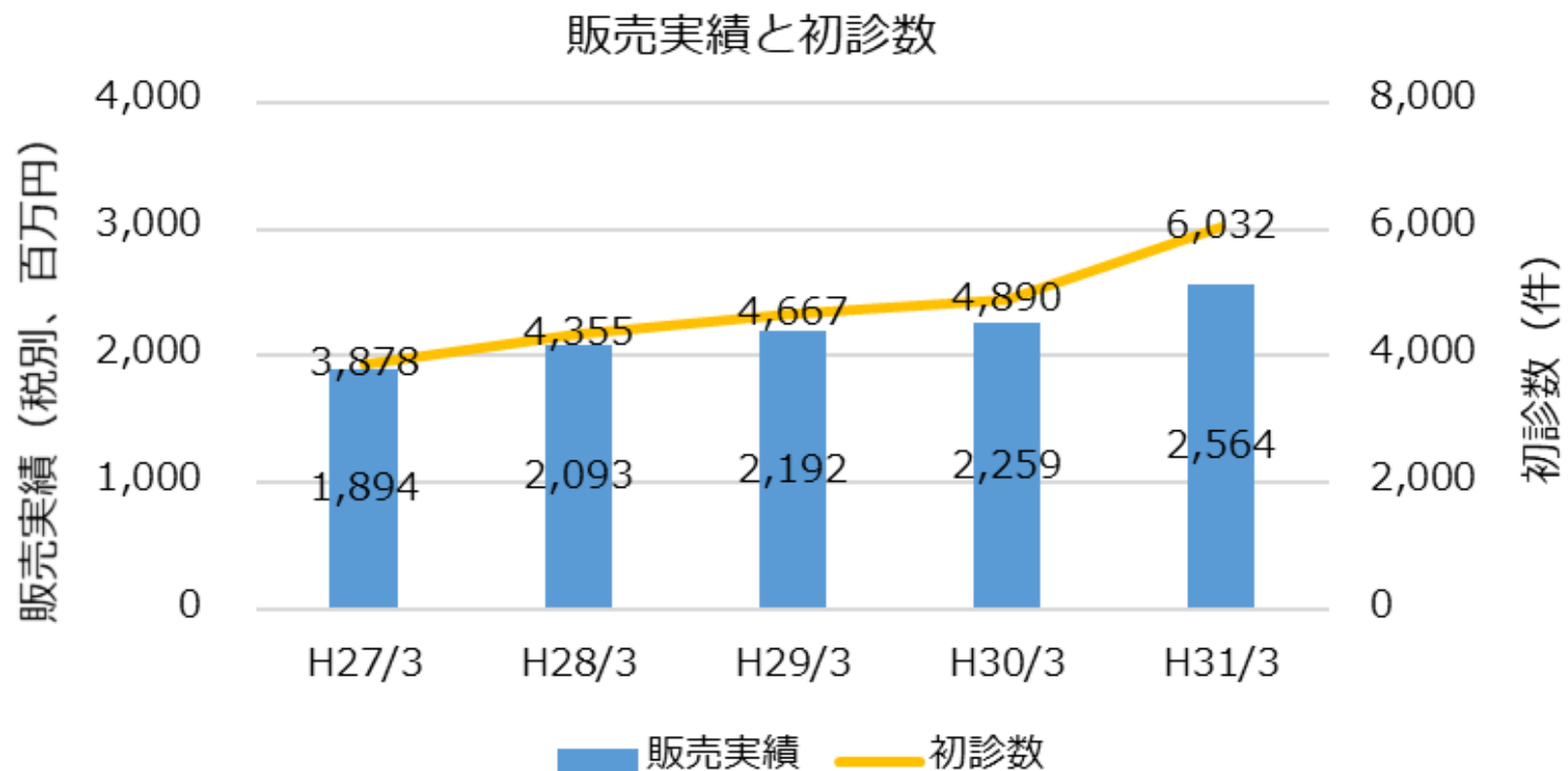
- 拠点のある関東地方と東海地方で多くの動物病院と連携済み
- 一方で拠点のない西日本では動物病院との連携が進んでいない

都道府県別の連携病院数と連携率



日本動物高度医療センター～業績動向～

- これまでに行った診療サービスに対する飼い主及び一次診療施設の満足度が現れたものとして初診数を最重要視
- 初診数は5年間で56%増加
- 初診数に比例して販売実績は5年間で35%増加



日本動物高度医療センター～経営環境と課題～

経営環境

- 動物にも人間と同じような高度な医療を受けさせたいというニーズの高まり
- 動物病院の数は増加傾向
- 犬飼育頭数は減少、猫飼育頭数は増加、全体として微増
- 動物 1 頭あたりの医療費を含む支出額は増加
- 犬猫の高齢化に伴い、疾病が多様化



経営課題

- 質の高い動物医療サービスの提供
- 大阪をはじめとする全国主要都市への二次診療施設の展開
- 人材の確保と育成
- 動物医療業界における地位の確立とネットワークの強化
- 働き方改革の推進

着目した経営指標から強みや経営課題を分析しましょう

#	企業名	経営指標	強みや経営課題
1			
2			
3			
4			
5			